

社会委員会通信

No. 30

2008. 3. 2

発行：横浜港南台教会 社会委員会

〒234-0054

横浜市港南区港南台 7-8-29

Tel : 045-833-5323 Fax : 045-833-6616

2月の社会委員会学習会は竹内忠美さん（上大岡教会員・教区核問題小委員会委員）をお迎えし、「横須賀が原子力空母の母港になったらどうなるの？」という演題で、ビデオ「原子力空母の危険性 Part3」と小冊子『原子力空母はほんとうに安全か？』に基づいて講演していただきました。

横須賀の米軍基地には空母等の艦船が配備されていますが、現在の通常型空母が退役し、その後継として2008年8月には原子力空母が配備されることになっています。

竹内さんは、このことは大変大きな問題であると考えられており、「不安の種が尽きない諸問題を抱えていることを皆様を知っていただきたいという思い」、「一市民としての平和で安心して暮らしたいという願い」、「日本の安全を本気で考えた市民活動」等、竹内さんの思いと活動を通して「戦争」と「平和」について深く考えさせられました。

神様、「平和を実現する人々は、幸いである」との主のみ言葉をもう一度はっきりと私共に聞かせてください。そして神様に対する信頼に根ざしてどんな小さなことでも実行し、少しの平和でも自分の周りに広げていくことができますように願い、祈ります。

参加者は24名（男性5名、女性19名）でした。2年ぶりの大雪の中を参加していただいた皆様、ありがとうございました。

（社会委員長：H・T）



横須賀が原子力空母の母港になったらどうなるの？



講演要旨

上大岡教会員 竹内 忠美

私にとってのキリスト教と母港化の問題

今日は、お呼びいただきまして、ありがとうございます。横須賀に引っ越して地域の「9条の会」の会員になり、原子力空母配備のことを知ることになりました。原子力空母が配備されるということは、あまりにも大きな問題ですので、私が話すのはおこがましいのですが、皆さんにも関わることでありますので、お話ししたいと思ってまいりました。

私は、行動を伴う事をする時は「何をな

したかではなく、どれだけ愛したか」というマザー・テレサの言葉を大切にしたいと思っています。

私たちは目に見えることに心を動かされがちですが、神様がご覧になっておられるのは「心、思い」だと思のです。ですから、イエス様は教会の中だけにおられるのではなく、イエス様を知らなくても平和を願い行動をしている人たち、こつこつと地道に行動している人々、その優しさと忍耐強さに出会う

と、イエス様はこの中で一緒に働いておられると思います。

昨年 11 月、52 歳で天に召された広沢努さんのことをお話したいと思います。空母が配備された時から 35 年、一貫して平和のための活動をされた方です。朝日新聞にも載ったのでご存じの方もいらっしゃると思いますが、穏やかで心が優しい人で、たまに船越教会にもいらして「教会に来ると落ち着く」と言っておられたそうです。

原子力空母は戦争、人殺しにつながるもので、憲法 9 条を持っている日本に居座ることは許せない、と思うのは当たり前のことですが、広沢さんは 92 年に自衛隊がカンボジア PKO に派遣された時には、「自衛隊員が戦死するかもしれない」という思いから、自衛官の悩みを電話で聞く「自衛官 市民ホットライン」を設け、中心になって取り組まれました。自衛官の自殺はかなり多く、いじめで自殺するようなことは許せない、と裁判も応援されました。また、米兵に対しても、基地の前で日本語で一生懸命に訴え英語の文を渡す、といったことをされる人で、敵・見方の区別なく、手を差し伸べる方でした。

お別れの会の時「めちゃくちゃに優しい男で、それが戦争反対につながったんだと思う。絶対に人とけんかをせず、敵を愛するということを本当にやっていた」と友人が言われました。理解し合おうという姿勢を貫いておられ、優しさが愛する姿となって私たちの心に刻まれ、忘れられない人となりました。私はこのような人々から元気ももらって活動を続けています。

社会活動、政治に関わることをしていると、キリスト教から離れたことのように思ったり、言ったりする人がいますが、自分の周りを見ても、本当にさまざまな人がいて、「何もしないで自分は平安を与えられるように」とい

う気持ちにはなれません。神様は「この世には悪魔が活発に働いているけれど、逃げないでこの世と向き合って歩みなさい」とおっしゃって、私たちをこの世にお遣わしになったと思います。

私は小学生の時に教会に行きました。子どもの頃よく分からなかったみ言葉が、60 歳を過ぎると、アーメン、アーメンと迫ってくるようになりました。

争いが剥きだしになった今の時代、「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい」（コロサイの信徒への手紙 3：15）がとても心に響きます。このみ言葉を私なりに具体的に考え、捉われない心で、人が安らかに生きるために十字架を見上げて行動したい、という思いでやっています。

◆横須賀米海軍基地 空母艦船母港化の経緯

- 空母艦船は、戦争のために海上から飛行機（艦載機）が飛ばせるように造られた船です。
- 1973 年 空母艦船「ミッドウェイ」が横須賀米海軍基地に入港、後に母港化。
 - 1992 年 「ミッドウェイ」退役。
空母「インディペンデンス」配備。
 - 1998 年 「インディペンデンス」退役。
空母「キティーホーク」配備。現在現役。「キティーホーク」はイラク戦争に参戦して 5 年前、当初最も多くのミサイルを発射し、爆弾をばら撒いてきた。
 - 2008 年 8 月「キティーホーク」（通常艦）退役予定。原子力空母「ジョージ・ワシントン」配備を表明。



◆ 原子力空母は本当に安全か？

原子力空母は原子炉を積み、核分裂反応による熱で作った水蒸気でタービンを回して航行する航空艦船です。原子炉の構造は海軍の原子炉が原型で、原子力発電所の原子炉とは兄弟のように似ています。

横須賀米軍基地が原子力空母の母港になるということは、言い換えると、人口の密集した街、横須賀の海上に原子力発電所が2基(空母は予備用に2基搭載)突然出現することになるわけで、住民が原発以上の事故や放射能漏れの危険性と将来にわたって同居させられることを意味します。

原子力発電所を建設する場合は、立地条件や安全が守られる設計がなされているかなど、さまざまな「安全審査」が行われ、災害防止にも考慮して建てられますが、それでも事故は起きています。原子力空母は米軍の軍事機密ということで、審査はまったく行われないうばかりか、空母についての基礎的な情報はほとんど知らされません。米海軍は、原子力空母の安全性に関する文書(ファクトシート1枚)を提出し、事故は起きないと断言します。確かに、マニュアル通りに行われれば、事故は起きないように造られています。しかし事故は実際に何度も起きています。人間は自由な発想をする感情を持った生き物ですから、必ずしも決まった通りのことをすることは出来ません。ミスをなくすことは出来ないし、事故は起きると考えるのが自然だと思います。

かつて起きた事故の中で、原子力空母「ステニス」の座礁事故は深刻で、ひとつ間違えば原子炉の暴走につながる大事故寸前の事態でした。また、空母「ミッドウェイ」(通常艦)は船内の弾薬庫のすぐ近くで爆発火災事故を起こしました。

原子力空母だったら、弾薬に引火したら、と思うと背筋が寒くなります。イギリスでも

原子力潜水艦「レゾリューション」の原子炉の一次冷却水を回すポンプへの電力供給が停止し、緊急電力装置も作動せず、炉心温度は上昇。事態はメルトダウン(炉心溶融)に向かいました。これらは大事故寸前で回避されましたが、これらの事故によって被爆した人、命をなくした人がいるのです。



◆海軍原子炉の危険性

海軍の原子炉に使われている核燃料のうち、核分裂するウラン 235 の濃度は 95~97%です。これは核兵器と同程度の高濃度です。

原子力発電用の核燃料は暴走を防ぐために2~6%に抑えていますが、軍艦は長時間交換しないという軍事的な理由で、高濃度の核燃料を使います。万が一の事故の場合、被害は桁外れの大きさになります。

海軍の原子炉の急激な出力調整

原子力発電の原子炉は50時間かけて0から100%までの出力調整を行います。しかし、海軍の原子炉は、軍事上の必要性から1分という超スピードで100%の状態にもっていきますので、ものすごい負荷がかかります。原子炉は耐えられるように造られていると米軍は言いますが、安全性の根拠は示されていません。

また、物理学者は原発と比較して、狭い船内で炉心設計に余裕が少ない、放射能防護のための核納容器が不十分、船の中で絶えず振動衝撃にさらされる、交戦による原子炉破壊の可能性などの危険性を指摘しています。

◆過密航路

東京湾の浦賀水道は日本有数の過密航路として知られています。横須賀基地は航路帯の左側にあるため、右側を通行してきた原子力空母は、航路帯を横切って基地へ入ります。

かつて海上自衛隊潜水艦「なだしお」と釣り船「第一富士丸」の衝突事故は、この危険なポイントで起きました。現空母「キティーホーク」も衝突事故を起こしています。

横須賀米軍基地の環境汚染

横須賀米軍基地は100年にわたる軍港としての歴史から、国の環境基準を大幅に上回る水銀、ヒ素、鉛、有機塩素化合物を含むヘドロが多量に堆積していて、汚染されています。港内で釣れた魚には、以前から奇形が発見されていたのですが、12号パースの延長工事や、空母が接岸出来るようにする為の浚渫工事（海底を1.5m掘り下げています）で、奇形のハゼの取れる確率は70%、汚染はどんどん広がっています。

これまで横須賀軍港外の海域は汚染されておらず、貝や魚など豊富な海産物の取れる豊かな漁場でしたが、汚染がどんどん広がって漁師は仕事が出来なくなり、横須賀の汚染土壌による健康被害は、水俣病を連想させます。今、浚渫工事差し止めを求める裁判を起こしています。



◆深刻な放射能汚染

原子力艦船の事故や放射能漏れは数多く報告されています。最近横須賀で原子力潜水艦「ホノルル」から出たと思われるコバルトが検出されましたが、国は「たいしたことはない」で済ましてしまいました。また、原子力空母の母港化により、基地内では原子炉のメンテナンスが行われます。それによる放射能漏れは、各地の原発事故と同様に、日常的に起こると予測されます。大海に少々放射能が漏れても分からない、で済ませているのかもしれませんが、海は命の源です。放射能の垂れ流しのツケはどのように現れるでしょうか？

◆放射能による健康被害

空母から排出される冷却水には放射能が含まれています。何らかの形で体に入った放射線は体内に留まり続けます。被爆による死、がんになる確率が高い発がん性の問題、奇形の子どもが生まれる、その他放射能によると思われる病気の人々など、アメリカでは顕著な放射能被害が出ています。横須賀で万一大規模な原子炉事故が発生したら、チェルノブイリ事故と同様に、放射能汚染物質が周囲に拡散され、10万人以上の死者と、汚染のため長期間周辺に人が住めなくなるという事態が起こりうるかと報告されています。

地震は深刻です

横須賀港は、三浦半島北部断層帯で確認されている衣笠・北武活断層から4～6kmの距離に立地し、武山活断層からでも7kmの距離に位置しています。港湾区域は、ほぼ全域が壊滅的な震度7に遭遇するとされ、地盤液状化は、海岸線で確実に想定されています。このことは、横須賀市のシミュレーションでも明らかになっています。

横須賀でも三浦半島を何本も走る活断層による直下型地震の危険が大きな問題となっています。関東大震災の際、三浦半島では津波の前に海面が低下し、海底の地盤も大きく隆起しました。横須賀基地では建造中の軍艦が破壊され大被害を受けた、と記録に残っています。

原子力空母の横須賀港への入港時、あるいはその直後に地震が発生して海面低下や海底の隆起が起これば、原子力空母の海水取り入れ口が海底と接触して、海水の取り入れに支障をきたし、原子炉の冷却が効かなくなる危険があります。

原子力空母は横須賀基地入港直後から出港直前まで、原子炉の運転を停止し、陸上から

電力供給を受けます。燃料棒のウランの崩壊熱によってメルトダウン（炉心溶融）を起こさないように原子炉を冷却しなければなりません。炉心を守って冷却し続けるためには、ガス発電所、変電施設、純水製造施設が稼働しなければなりません。現在横須賀基地内は、そのためのガス発電所、変電施設、純水供給工場を建設中ですが、これらは埋め立て地に建てられています。

空母の原子炉そのものに被害がなくても、周辺施設が地震によって機能しなくなれば、原子炉の暴走につながる事故が発生する危険があります。そして、横須賀港内には 4,000 人を超える人がいることも覚えなければなりません。原子力空母は戦争を想定してそのために配備された船ですから、原子炉の危険性に加えて、交戦による原子炉の破損による危険性があることが大きな危険の要因です。

市民の反対運動の取り組み

「非核市民宣言運動ヨコスカ」

1973 年、空母が配備されて以来 35 年間、定例デモ（毎月第 4 日曜日 15:30 集合、ウェルニー公園から）を行っています。

「ヨコスカ平和船団」

海上から阻止を訴え続けています。自衛隊の護衛艦がインド洋に出て行きましたが、その時も海上から訴えました。

- ・ 定例海上行動
- ・ 海からの基地見学

2008 年 3 月 30 日（日）

午前 10:45 J R 田浦駅改札口集合

連絡先 非核市民宣言運動ヨコスカ

Tel 046 825 0157

（どなたでも参加出来ます）

「原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会」

この会は、★原子力空母の横須賀母港化のストップ ★米海軍横須賀基地 12 バースの

延長、整備計画のストップを目指し、そのために、原子力空母の横須賀母港化をもたらしている問題点について、みんなで事実を知り、考え、自由・活発に議論し、市民の間に広めていくことを目指しています。

「ストップ原子力空母裁判を進める会」
横須賀市と国に対し、裁判を起こしました。「横須賀港浚渫工事の港湾法協議の差し止め」の訴えと仮の差し止め決定の申し立てを、横須賀市を相手に横浜地裁に提訴しました。

「浚渫工事差し止め訴訟」（原告 649 名）を、国を相手に横浜地裁横須賀支部に提訴しました。

「浚渫工事禁止を求める仮処分申し立て」（原告 400 名）を、国を相手に横浜地裁横須賀支部に提訴しました。

「住民投票を成功させる会」

・ 第 1 回：2006 年 11 月から住民投票法案のための署名運動を起こし、40,000 名を超える署名を集めました。横須賀市議会は否決しました。

・ 第 2 回：2008 年、再び住民投票法案のための署名を行い、住民の意思を表すことを決定。現在署名を集める受任者を募集しています。3 月署名開始。カンパなどの協力をお願いしています。



おわりに

一人でしまい込まないで、平和を願って共に祈りましょう。イエス様は「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである（マタイによる福音書 18:20）」とおっしゃっています。誰かと語り合って、平和の輪をふくらませてください。

戦争を起こさない憲法 9 条を日本だけでなく世界の憲法にしましょう。

[参考資料]

1971年～2001年の原子力艦船の事故

年	事 故
1971	米原潜ウッドロウ・ウィルソン、グアムで一次冷却水の圧力低下、メルトダウンの危険
1971	米原潜スヌーク、故障で船体を傾けながら横須賀に入港、放射能汚染の疑い
1975	米潜水艦母艦プロチュウス、グアム湾内に高放射能の一次冷却水を大量に放出
1976	米原潜から補給船に移していた冷却水500トンが川に漏出
1977	米ピュージェット造船所で、2週間に4件の放射能汚染事故、3人が被曝
1978	米原潜パファー、高放射能の一次冷却水を大量にピュージェット造船所内に流出
1979	米原子力空母ニミッツ、原子炉部分で一次冷却水漏れ
1980	米原子力巡洋艦ロングビーチ、沖縄で高放射能検出
1980	米原潜ホークビル、ピュージェット造船所で冷却水漏れ、5人が汚染2人が内部被曝
1981	米原潜ジョージ・ワシントン、日昇丸を当て逃げ
1982	米原潜サム・ヒューストン、ピュージェット造船所で冷却水漏れ、1人が汚染
1983	米原潜サーゴ、ハワイで冷却水排出時に放射能漏れ
1983	米原子力空母エンタープライズ座礁
1984	米空母キティーホーク、日本海でソ連原潜と衝突
1986	米原潜ナサニエル・グリーン座礁、米原潜アトランタ座礁
1988	英原潜レゾリュション、一次冷却水が止まり、あわやメルトダウンの事故
1998	米原子力空母アイゼンハワー、商船と衝突事故
1989	米原子力空母アブラハム・リンカーン、330ガロンの低放射能冷却水を川に放出
1989	米原潜フィンバック、乗組員が低レベルの放射能物質を含む機械を川に投棄
1990	原子力空母ニミッツの4名の水兵、定期点検のごまかしを内部告発
1991	原子力巡洋艦ロングビーチ、故障のためサンディエゴ湾内に一次冷却水が漏れる
1992	原子力空母エンタープライズ、造船所で冷却水が漏れ、600万ドルの浄化作業
1994	原子力空母エンタープライズ、修理中に原子炉室で火災発生、放射能物質が漏れた
1995	原子力巡洋艦カリフォルニア、放射能を帯びた水が漏れ、3名の水兵が汚染
1996	ピュージェットサウンド造船所で原子力艦アーカンサスから放射性蒸気が漏れた
1996	原潜サンファン、グロートン基地で水兵1名が原子炉への破壊行為の疑いで免職
1997	原潜ポーツマス、基地での作業中に2人の労働者が被曝
1998	アイダホの海軍原子炉実験施設から高レベルの放射能を検知、住民200名が避難
1999	原子力空母ステニス、母港のサンディエゴ港内で座礁、原子炉2基が緊急停止
2000	原潜オリンピア、ハワイの造船所で放射性冷却水が漏れ、3名被曝
2000	露原潜クルスク、爆発事故を起こして原子炉ごとバレンツ海に沈む
2001	原潜グリーンビル、ハワイ沖でえひめ丸と衝突、9名死亡
2001	英原潜タイアレス、地中海であわやメルトダウン寸前の事故



社会委員会からのお知らせ

2月の社会委員会学習会に使用した小冊子『原子力空母はほんとうに安全か?』が聖書棚の上に置いてあります。ご自由にお持ち帰りください。

今年度の学習会へのご参加、募金へのご協力に心から感謝申し上げます。次年度もよろしくお願いいいたします。